

## 教育の質の向上に係る取組について

常磐会短期大学では、学長室が主体となって、ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）に関する学習成果エビデンスを収集、分析、評価し、これら教育課程の適切性を検証するとともに、その結果を活用し、学生個々のスキルやコンピテンシーをより高める学習指導を推進することで、以下のレベルにおいて教育の質保証を行います。

### 1. 機関（短大全体）レベル

全学的な教育改善や個々の学生への学習支援の質向上を目的として、本学が掲げる教育目標やディプロマ・ポリシーの到達度、就職・進学状況などを評価し、検証します。検証結果は、常磐会短期大学全体の現状把握とともに教育の改善、向上に活用します。

### 2. 教育課程（学科）レベル

1回生の時点から基礎演習授業において「履修カルテ」を実施し、入学生の学習動機や目標等の確認を行い2回生へとつなげます。在学中には、各年度または各学期において、授業評価アンケート、学修行動調査等の全学生を対象とした調査、GPA(成績評価から算出される数値)、単位修得状況、資格・免許取得状況、実習現場からの学生実習評価とGPAの分析などについて、学科単位で現状の把握を行います。学生個々は、カリキュラムマップの作成を行い、また実習先の評価について開示され、自身の学びの評価を可視化します。卒業時には、ディプロマ・ポリシーの到達度を多面的に査定するために、卒業時調査（満足度調査）、各履修科目の単位修得状況およびGPA、また学生の自主的活動を用いた評価が行われます。これらの調査を通して、教育課程の適切性を検証します。検証結果は、学科の教育課程の見直しや学生指導および学習支援の改善に活用されます。

### 3. 科目レベル

授業担当者は、各授業科目において、シラバスで提示された学習到達目標に対する各学生の達成状況を、試験やレポート、学習活動の状況等により、多面的に評価します。各学生へは、成績評価とともに、シラバスにおけるディプロマ・ポリシーと関連づけられた評価項目が示され、カリキュラムマップにより学生が自身の能力を確認し今後の学習目標を設定することに活用されます。また、成績評価分布の妥当性検証、学生による授業評価アンケートの結果から、科目ごとに学習成果の達成状況を把握し、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの整合性、学習到達目標の妥当性を検証します。検証結果は、科目の授業内容および方法の見直し、科目の改廃など、教育改善に活用されます。